

生分解性マルチ①：技術概要

○生分解性マルチはポリマルチ同等の性能を確保しつつ、最終的には土壌中の微生物により、水（H₂O）と二酸化炭素（CO₂）に分解されるマルチ。

- ・持続可能な環境調和型農業への貢献： 脱プラスチック
- ・生産者に与える影響： 剥ぎ取り不要による省力化、廃プラ費用の削減

1. メリット

- ・ 使用後の回収※（剥ぎ取り）不要
⇒ 労力軽減、作業効率の向上（作業計画が立てやすい）
※ 剥ぎ取り前の残渣処理、泥落とし作業も含む

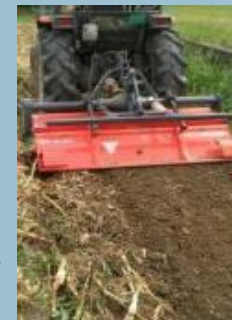
- ・ 廃プラ処理費削減

2. デメリット

- ・ 資材コスト高（ポリマルチの数倍）
- ・ 気象や土壌条件により分解速度が異なる（同一圃場でも年により、劣化速度は異なる）
⇒ 早期分解（劣化）の発生や逆も然り
- ・ 加水分解（空气中）により物性が劣化するため、購入後、半年以内の使用を推奨。



使用方法はポリマルチと同じ！



生分解性マルチ②：使用事例 1

★使用事例

●作物：枝豆

1. 利点：栽培途中に地際部の分解（劣化）が発生したが、すき込み作業が可能であるため、次作へのスケジュールがスムーズ（天候に左右されにくく、計画が立てやすい）に行えた。
2. 問題点：単価が高い。
3. まとめ：高価なため全面使用は難しいが、一部に導入していく予定である。



●作物：スイートコーン

1. 利点：マルチを撤去する際、ポリマルチだと1畝ごとに手作業で回収作業を行うところ、生分解性マルチはトラクターですき込むだけなので、片付けの省力化に大きく貢献した。また、廃プラ削減にも繋がった。
2. 問題点：特になし。
3. まとめ：ポリマルチと比較しても、生育・収量に差がなく、今後も使用を継続する。



生分解性マルチ③：使用事例 2

★使用事例

●作物：甘藷

1. 利点：収穫まで問題（早期分解による裂けの発生や、生育差）なく、マルチ機能を十分果たしていた。収穫は収穫機を使用するが、対照区と比較し、剥ぎ取り作業がない不要であることが良く、マルチが機械に絡まる等の問題も無かった。
2. 問題点：単価が高い。
3. まとめ：現状の価格差（ポリマルチと比較）では費用対効果が出ないと感じており、導入していない。



●作物：馬鈴薯

1. 利点：初期の強度に問題なく、作終了後のすき込みが可能であることが最大の利点と感じた。
2. 問題点：収穫前に分解（劣化）し、果実が日光に晒され、秀品率が低下（緑色となった）した。
3. まとめ：すき込みが可能であることによる省力化が非常に魅力的であるが、秀品率が低下することが危惧される。⇒長期展張規格を開発してほしい。

